

漁港の整備は市民の手で

～ 講演会『地域おこしと
漁港漁場整備』～



第3種漁港に昇格した登別漁港

たくさんの市民が ITに触れました

～『IT講習会』終わる～

12月13日(金)、鷲別公民館で『IT講習会』の最終回が行われました。

このIT講習会は、IT技能の早期普及を図る国の補助を受け、全国の市町村で行われたもので、登別市は平成13年5月17日からスタート。最終回のこの日まで、各公民館や市民会館、市立図書館などを会場に、パソコンの初歩的操作の習得をテーマに計163講座が開かれ、延べ2,400人が受講しました。

この日受講した市民17人は、ホームページの閲覧や検索、Eメールの利用方法など、インターネットの基礎を学ぼうと、マウスを握り、真剣な表情でパソコンの画面をのぞき込んでいました。



鷲別公民館で行われたIT講習会の最終回

11月30日(土)、中央町のホテルで講演会『地域おこしと漁港漁場整備』が開催され、市民約150人が参加しました。

この講演会は、平成14年の春に登別漁港が地元だけでなく道内外の漁船などが広く利用可能となる第3種漁港に昇格したことを受けて、登別市と白老町の漁港利用者や地域住民などで構成する『登別漁港の明日を考える会』が開いたものです。

講師として招いた水産庁の長野章漁港漁場整備部長は、漁港整備の最近の国の動きを説明したあと、これからの漁港づくりとして「漁港の整備は地元をよく知っている市民の人たちの意見を中心に進められるものである。その整備も漁港だけでなく、周辺の山や川などの自然環境も視野に入れて進めなければならない。また、登別市の特徴である観光産業など、そのまちのもつ特性も生かすべき」と話しました。

同会は、この講演を参考に、登別漁港の今後の整備に向けて、同漁港を核とした漁業振興や地域振興についての要望書を国や北海道、登別市、白老町へ提出することになっています。



講演する長野章さん

日中の架け橋として 頑張ります

～鄧志強さんが『鬼大使』に～

12月17日(火)、中央町のホテルで、自治体職員協力交流事業の研修員として、昨年6月から日本の地方自治制度と観光行政を中心に研修を積んできた中国広東省韶関市職員・鄧志強さんの送別会が開か



れ、上野市長から鄧さんに『登別市ふるさと大使』（通称：鬼大使）の委嘱状が手渡されました。

登別をPRする『鬼大使』は、首都圏や海外に在住している登別ゆかりの方に委嘱しているもので鄧さんは44人目、外国人としては13人目の鬼大使。「登別の観光PRにとどまらず、日中両国の友好、経済、文化、平和の架け橋になります」と別れの言葉を述べた鄧さんは、12月25日(水)に帰国の途に就きました。